

【国際教育研究センター】留学生交流授業「附属小 de 世界一周」

和歌山大学の留学生 10 名が、2 月 25 日に和歌山大学教育学部附属小学校で行われた「附属小 de 世界一周」の交流授業に参加しました。

留学生は、ゲストティーチャーとして、5 つのブースに分かれて、自分の国の紹介をしました。交流授業には様々な国から全部で 25 のブースが参加し、附属小学校が国際的な雰囲気にも包まれる中、子どもたちがクラスごとに各ブースを巡回し、それぞれのブースで各国について体験的に触れられるように企画されました。留学生たちも自分の国を紹介するために、写真や映像、民族衣装や民芸品を用意し、子どもたちのイメージがふくらみ、自分たちの国に対する関心が持ちやすいように工夫して準備してきました。

中国の留学生 4 人は 2 つのブースを用意しました。1 つのブースでは、中国のテレビ番組で様々な地域の音楽と舞踊を見て、多様な民族について学びました。また、中国でお祝いの時の飾りに使う紙切りを得意とする留学生から習って、一生懸命赤い紙とはさみで飾りつくりに取り組む子どもたちの姿が見られました。もう 1 つのブースでは、中国の地図と代表的な景色を見て、その美しさに驚きの喚声があがっていました。中国の地図を見て「何の形に見えますか？」との問いかけに「にわとり！」と答えると、画面にニワトリの絵が現れて、子どもたちを喜ばせていました。日本の福笑いに似た中国の遊びに子どもたちは大爆笑で、教室中でとても楽しく参加していました。



中国からの留学生との交流（紙切り）



中国からの留学生との交流「何の形に見えますか？」

台湾の留学生 2 人は、台湾紹介のあと、台湾のじゃんけんを披露しました。両手をゆらゆらと揺らす動作から、「わかめじゃんけん」と言われているそうです。子どもたちも実際にやってみましたが、掛け声とともに、両手を上、前、横のどちらかに出して、じゃんけんにも勝った人と同じ方向に両手を出してしまうと負けです。日本の「あっち向いて

ホイ」を、指先と頭ではなく、両手を使って行うイメージです。教室中から掛け声起きて、たいへんにぎやかな交流でした。



台湾からの留学生との交流

タジキスタンからの留学生は、子どもたちからの質問に答えながらタジキスタンについてお話しする中で、代表的な料理を説明したところ、野菜や牛肉といった材料を聞いた子どもたちから「おいしそう！」との声がたくさん聞こえてきました。タジキスタンの周辺国である、アフガニスタン、中国、キルギス、ウズベキスタンの名前を紹介すると、「スタンばかりやなあ」と気づいた人もいました。「ひらめは泳いでいますか？」という質問に、「タジキスタンには海がありません。」と答えると、教室中に驚きの声があがっていました。「魚は食べないのですか？」「川の魚を食べます。」と疑問もどんと膨らんでいました。和歌山に暮らしていると、海がないということがなかなか想像しにくいかもしれません。



タジキスタンからの留学生との交流

トルコからの留学生は、トルコと日本の友好、トルコ人は親日的な人が多いことを話してくれました。トルコでは小学校から「エルトゥールル号」について学校で学ぶそうですが、附属小の子どもたちに「トルコについて何か知っていますか？」との問いかけに対して、「アイスクリーム」の次に「串本でエルトゥールル号が難破したこと」との答えが出て、留学生も「さすが和歌山」と感心していました。トルコの踊りを知りたいという子どもたちのリクエストがあり、代表的な踊りも紹介しました。最後には、トルコ、そして出身地のイズミルの写真を見せたところ、美しい風景に喚声があがっていました。子どもたちの中からは、「おれ、めっちゃトルコ行きたくなってきた。踊りも覚えたし。」との声も聞かれ、とても関心を持った様子が伝わってきました。



トルコからの留学生との交流

各国留学生たちやゲストティーチャーの方々との交流を通じて、附属小の皆さんにとって、世界の国々に目を向けるきっかけとなり、もっと知りたいという思いがひろがった一日になったことでしょう。

2014年2月28日 国際教育研究センター